

Gakken「みんなだいすき!リズムのほん」でおなじみ! 丸子あかね先生への質問大募集



たくさんのご応募ありがとうございました!!

↓丸子先生からのご回答です↓

【Q1】最近3・4歳児の入会が多いです。文字も読めないし、色の違いも分からない。椅子に座るのがやっとの子どもに何から教えたらいいいのか悩んでいます。(ニックネーム ちっちさん)

【A】最初は座る時間を短くしてあげるようにレッスン計画を組み立てましょう。日頃指導されている導入期のレッスン内容を、一緒に遊んでいるような感覚でできるようにアレンジしてみると良いと思います。

例えば、“音符(音の高さ)”でしたら「せんとかんの区別」をポーズを作って体で覚えたり、シール獲得を目指してクイズ形式で遊んでみたり、大譜表マットなどを使って線の上、線と線の間を音楽に合わせてお散歩してみるのも良いですね。また同時に音列の指導を入れると楽しいです。“上”や“下”といった基本的な言葉の認識から、音が「高い」「低い」、音が「上がる」「下がる」などを体を動かしながら上手にはさんでみると良いでしょう。

“リズム(音の長さ)”は3・4歳児でしたら「リズムのほん」1巻が出来ますので、動物のキャラクターやりんご(1巻にりんごのペーパークラブが付いています)を使って興味も持たせながらゆっくり進めてみてくださいね。

また、教や色などの学習もレッスンの中で上手に組み込んでいくと、親御さんに喜ばれますよ。

ちなみに4歳児はかなり脳が発達する時期だと思うので、私はたくさんのお話を教えてあげたいと思っています。ただし、覚えるのも速いですが忘れるのも速いのが幼児の特徴のひとつですので、反復が大切です。

同じことを教えるにも、アプローチの仕方を変えて飽きないレッスン内容を考え、それを計画表(レッスンカルテのようなもの)にして残していくことをお勧めします。自分が行っているレッスンを客観的に見るのが今後に生かされていくと思います。

【Q2】レッスンに興味・関心がない親御さんが多いです。親御さんと一緒にできるレッスン法や課題はありますか？

(ニックネーム まいどさん)

【A】親御さんが無関心ということはお家での課題と一緒に取り組んでいただけない、という可能性もありますね。

私の場合はまず、関心を持っていただくために、「お付き合いしてあげてくださいね」とか「練習に付き合ってくださいの?」すごく良くなっているわ〜ありがとうございます」と言うようにしています。教室の先生方にも「お母さんのことも誉めてあげてね」と伝えています。

様々な家庭環境の方がいるので、必ずしも親御さんの協力が得られるとは限りませんよね。

興味を持ってほしいということであれば、例えば“ドリル”をうまく使ってみてください。「このページはそばで一緒に見てあげてもらえますか?」とか「お子さんがちょっととまどっていたら私に教えてください」などとお話して、親御さんとのコミュニケーションをとるよう心がけてみてください。

何をやっているのかわからない、教えられないという親御さんも多いと思いますが、その不安をなくしてあげることで、子どもと一緒にやっているという気持ちになっていただけるかもしれません。

【Q3】リズムの教材はたくさん出ていますが、新曲の初見試奏の力がつけにくく困っています。何か良い指導法があれば教えてくださいませんか。(ニックネーム ベルさん)

【A】初見というのは“リズム(音の長さ)”だけでなく、“音符(音の高さ)”を読む力も必要ですよね。譜読みのための訓練が必要となってきます。

セミナーでもお話していますが、音符は4つの音を横読みし、目で追えるように訓練していきましょう。

私の生徒たちは2つの音から始め、最終的には8つの音を4音ずつ2グループにわけて、一呼吸で言えるようになるまで何度もチャレンジしています。また、将来的に和音が出てくる時のために、縦読みも2つの音から6つの音まで読んでいます。1音1音拾い読みをしていると、譜面の先を見る力がなくなります。最低でも、1小節をひとくくりで見たい力をつけていかないと、譜読みに苦手意識が出てきてしまうのです。まずは少ない音、リズムもやさしい旋律を1小節単位で一緒にやってみてくださいね。出来るようになってきたら少しずつ音をふやしていきましょう。

【Q4】

★音符が読めて、音の長さなども理解できる生徒ですが、いざ楽譜をひらくとどんな曲かわからない・・・という状況。「リズムのほん」もやらせていますが他にプラスしてできることはありますか？ (ニックネーム Y・Mさん)

★リズム打ちはできるのに、いざピアノでそのリズム(メロディ)を弾くと上手く弾けない子どもにはどのような指導をすれば良いでしょうか・・・？ (ニックネーム なし)

★「リズムのほん」に併用した練習曲集が欲しいです。 (ニックネーム メロディーさん)

【A】 子どもにしたらリズムはリズム、音符は音符、それぞれ一生懸命やってきたのですぐにピアノの曲も弾けるんじゃないか・・・と思っています。耳のいい子や勘のいい子は両方が一致しやすいのですが、そんな子どもばかりではないのが現状です。そこで、“音符”と“リズム”が初めて出会うところの指導が必要になってきますよね。

このようなみなさんからのご意見や、実際セミナーで伺った先の先生方からの強い要望もあり、今、はじめてピアノに取り組む子どものために、「プレ譜読み」の教材を制作中です。1月下旬に発売予定です。ぜひ、お試しください。

【Q5】 ピアノが得意な子どもで、右手だけで左手のパートまで全部弾こうとします。左手の訓練で何か良いアドバイスがあれば教えてください。 (ニックネーム Y・Kさん)

【A】 そもそも右利きの子どもは、左手を日頃使わないわけですから、ピアノで左右同じように使うんだ、という感覚はないのが普通なのでしょうね。

まずは幼いころから左右の指示をしっかりと見ることが出来るように指導をしてあげましょう。また、左右の判別もできているようでいて、パッと反応できない子どもが多いのも現状だと思います。例えば、譜面の右手のところにはうさぎさんのシール、左手のところにはくまさんのシールを貼ってあげ、左手を正確に弾けたらくまさんのシールをごほうびにあげるなど、子どもに興味を持たせるよう工夫してみましょう。「くまさん登場しないね、さびしいって言っているよ」などと声掛けしてあげるのもひとつの方法かもしれませんね。

左右を平等に使う、指順を正確に見る(1の指がだなどの固定観念を持たせない)などの指導をしたい場合は、単旋律を左右の手で引き渡して演奏する曲で練習させると効果的です。

譜面に忠実に弾く習慣は幼児期からきちんと指導してあげたいですね。

【Q6】 音楽性は生まれ持ってくるものなののでしょうか？ 同じ曲を弾かせても、感情を持って弾く子と無感情で弾く子の差が激しいです。音楽性を身につけるにはどうしたら良いのでしょうか？ (ニックネーム R・Hさん)

【A】 セミナーでよくお話しすることですが、子どもは実によく親や先生を見ています。表現力の多くは、まず先生やお友達の奏法の模倣から始まると思います。よくイメージをたくさん持っているかどうか、ということが大切と言われていますが、最初からそのイメージを形にできる子どもは少ないと思いますよ。

模倣にしても真似が上手な器用な子どもばかりではありません。表現することを中心にレッスンすると、指先がぶれて良い音が鳴らなかつたりしますよね。

子どもは10人いたら10人とも違う環境で育ち、違う性格を持っています。だからこそ教えていて面白い！

音楽性を育てるといえるのはその子どもによって心の成長過程が違うので、みなさん同じというわけにはいきませんが、指導者がオーバーに演奏してみたり、歌を作って歌いながら弾いてあげる、そして1曲を長く持つ機会がある場合は、手取り足取り指導をする時間を取ってあげられると、ある日突然「あれ？前と明らかに違う？」という日が訪れたりします。

本来は子どもが自発的に真似したり、自分の心を表現できるのを待つことが最善だとは思っています。子どもの成長に合わせて「いつか花が開くよ」、と大切に育ててあげたいですね。

【Q7】 「リズムのほん」の“拍子打ち”。手打ちはしていますが、ほかに効果的な方法はありますか？ (ニックネーム なし)

【A】 これはセミナーで先生方からお聞きしたのですが、手で“拍子打ち”した後、にボンゴなどの楽器をたたいたりしているようです。他にも、子どもにタンバリンで拍子をたたかせて先生がリズムの部分で太鼓をたたき、それを交換してやってみる、など先生方は工夫されているようです。また、手で打つコーナーと楽器をたたくコーナーを分けることで、子どもたちに“移動する”楽しさを持たせている先生もいらっしゃいました。

“拍子打ち”の段階で苦手意識を持たせたくありません。ピアノの演奏に必ずつながっていくところだと思いますので、パターンを変えて何回も反復して欲しいです！

丸子あかね(まるこ あかね)

桐朋学園大学演奏学科ピアノ専攻卒業。大阪芸術大学非常勤講師。社団法人全日本ピアノ指導者協会川越支部長、かわごえ時の鐘ステーション代表、ピティナ・ピアノコンペティション課題曲選定委員および審査員、ステップアドバイザーなどを務める。「あかねピアノ教室」を主宰し、初級者から上級者まで幅広い層の生徒を指導。2006年には、導入期の教育を主体とした「第2教室」を開校。実践に基いた指導法に関するセミナーも展開している。1998年より「ピティナ指導者賞」を13回受賞。著書・監修には、「リズムのほん」シリーズ全5巻、はぎとり式ドット「リズム」「おんぶ」「おんぶカード」「リズムカード」(以上学研パブリッシング)他多数。